

## 第6回埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和2年5月19日（火）15：30～17：30

2. 会場：危機管理防災センター本部会議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

坂木 晴世 国立病院機構西埼玉中央病院 専門看護師

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長

光武 耕太郎 埼玉医科大学国際医療センター 教授

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

山野 均 県民生活部長

森尾 博之 危機管理防災部長

関本 建二 保健医療部長

濱川 敦 都市整備部長

萩原 由浩 副教育長

星 永進 保健医療部 参事

本多 麻夫 保健医療部 参事

中山 貴洋 雇用労働局長

岸本 剛 衛生研究所 副所長

## 5. 主な意見

### ア 現状の分析・評価

- PCR検査については、埼玉県は民間検査と行政検査の内訳がはっきりしているため非常に分かりやすい。
- 国の解除基準である直近1週間の10万人当たりの累積新規陽性者の数は0.5となっているが、この数値を設定した理由としては、日本は、感染者数が一定程度くすぶり続けた後、急激に患者数が増えた経緯があった。非常事態宣言はこの数が急激に上がった際に発令し、その時は各地で病院がパンパンな状態であることが確認されている。10万人あたり0.5人という基準は、このくすぶり状態ぐらいを指している。

### イ 埼玉県における出口戦略

- 重症ベッド占有率50%以下というのは、大阪府も同様なので適当ではないか。
- 重症以外のベッドについては、患者が減ってきた際にそのまま確保するのか一度畳むのかは悩ましい。
- 患者数の減少によりコロナ用のベッドを畳んだとしても、今回の経験があるので次回は速やかに準備できるのではないか。

### ウ 県立学校の再開について

- 児童生徒用の健康観察カードについて、朝に熱がなくても夕方から夜間にかけて発熱するケースが多いため、朝だけでなく夜についても体温記載欄を追加すべき。
- 基本的には子供たちが感染するリスクは学校よりも家庭の方が高い。ただし、全くリスクがないわけではないため、注意が必要。
- 体育や音楽の際にマスクを強制的につけることは反対。つけていない子は他の人との接触を避けるなどして対応できるのではないか。

### エ 施設の再開について

○入館時に来館者が記録をするとあるが、スマホで登録できるようにするなどの方が良いのではないか。

○児童公園のような小規模な公園を閉じてしまうと、かえって一か所に集中する危険性があるため、機会は設けてあげるべき。

#### オ パチンコ店に対する施設の使用停止要請について

○パチンコ屋についてはクラスターが発生した実績がない。問題は熱中しすぎてしまったり、煙草を吸う人が多いという環境を整えられれば問題はないのではないか。

○現状においてはリスクが高いため停止もやむを得ない。ただし、工夫によってはやりようがあると思われる。

#### カ 宿泊療養・自宅療養の解除基準について

○ウイルスそのものは発症から10日間くらいでほぼ分離されなくなってくるため、PCR検査が陽性でも感染の可能性は低い。

○PCR検査を行うことによって安心感を得られるのであれば行った方が良い。

○4週間経過後に1回は検査をするということを原則として、例えば第2波が来てPCR検査のキャパシティに余裕がなくなるなど、そこから外れる部分をただし書きとして整理するというのであれば良いのではないか。